

# 2012年1月1日～2020年12月31日の間に 岡山市内の病院外の場所で突然心停止となり救急搬送された方と そのご家族の方へ

—「バイスタンダーCPR 施行者の男女差が院外心停止患者の神経学的予後に与える影響：  
疫学的検討」へご協力をお願い—

研究機関名 岡山大学病院

研究責任者 岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座 野島 剛

## 1) 研究の背景および目的

現在、わが国では年間約12万件の心肺停止患者さんが病院外で発生しております。その予後は年々改善傾向していますが、市民が目撃した心肺停止患者さんでも30日後の社会復帰率は低いままであり、これを改善させることができるかが問題となっています。今現在、社会復帰率に関しては、病院に到着する前に自己心拍が再開する、または心停止から心拍再開までの時間が短いほど予後がよいとされています。また、心肺停止後1分経過するごとに神経学的予後良好な生存率が10%以上低下するため、心停止の発見者（バイスタンダー）による早期の心肺蘇生法（Cardiopulmonary Resuscitation, CPR）が重要であるといわれています。また、発見者の方へのCPRの口頭指導はバイスタンダーCPRの施行率向上させる助けとなります。

CPRの質については性別において、男性が女性と比べて良いとするマネキンを用いた研究報告はいくつかあります。しかし、現実社会のデータを調べてバイスタンダーCPR施行者の方の男女差による神経学的予後への影響を疫学的に検討した報告は少ないです。本研究では岡山市消防局のデータベースを使用して、バイスタンダーCPRを行う人の性別が院外心停止患者さんの30日後の神経学的予後に与える影響について検討します。この検証により、効果的なCPR施行者の方を口頭指導することで早期から質の高いCPRが可能になると考えます。

## 2) 研究対象者

2012年1月1日～2020年12月31日の間に岡山市内で院外心停止となった18歳以上の患者さんで、30日間生存された方のうち岡山市消防局に登録された3084名を研究対象とします。

## 3) 研究期間

倫理委員会承認後～2024年12月31日

## 4) 研究方法

2012年1月1日～2020年12月31日の間に病院外の場所で突然心停止となり30日間生存された方において、30日後の脳機能カテゴリー、搬送時間、応急処置や消防局からの電話指示、患者さんの病状などの情報から、バイスタンダーCPR施行者の方の性別による神経学的予後への影響を調べます。

## 5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、岡山市消防局に登録されているデータから以下の情報を抽出し使用させていただきます。なお、岡山市消防局よりいただいたデータでは、すでに匿名化されており、個人を特定することは不可能になっております。抽出の際、あなたの氏名、生年月日などの情報は削除、匿名化されています。

1) 年齢, 性別

2) 消防への覚知時間, 搬送時間

3) 心停止の目撃の有無, 口頭指導の有無, バイスタンダーCPRの有無, バイスタンダーCPR 施行者の年齢・性別・講習受講経験の有無, 初期心電図波形, 特定器具の使用の有無, 心原性もしくは非心原性心停止

4) 病院前処置(気道確保方法, 静脈ラインの確保の有無, アドレナリン投与の有無, 除細動の有無, 除細動の回数, 初回除細動までの時間)

5) 心拍再開の有無

6) 30日後生存

7) 30日後のCPC(脳機能カテゴリー)

## 6) 情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院救命救急・災害医学講座内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

## 7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

### <問い合わせ・連絡先>

岡山大学大学院医歯薬学域 地域医療人材育成講座

氏名：野島 剛

電話：086-235-7427 (平日：8時30分～17時00分)